

# シンポジウム

# 戦争を考える

## 歴史学からのアプローチ

### ◆岡田和一郎（陝西師範大学）

#### 分裂期中国における2つの〈戦争〉

南北朝時代、華北に建国した北朝諸国家は北にモンゴル高原の遊牧勢力、南には江南の南朝が存在した。プラトンの戦争の定義によれば、北朝にとってこれら2つの外部勢力との戦いは、内戦ではなくとも戦争となるはずである。しかしながら、両勢力との戦い方やその境界域に対する政策は、南北で全く異なっていた。今報告では、北朝の南北勢力に対する戦いや南北の境界域政策を分析することで、北朝ひいては分裂期中国における2つの〈戦争〉がもつ意味を考察していく。

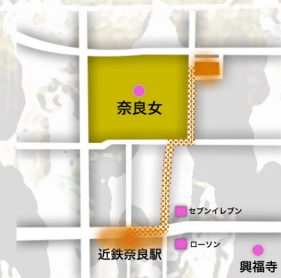
### ◆田中希生（奈良女子大学）

#### 大陸浪人——近代日本の戦争機械

誰もが知るとおり、近代日本は、武士身分を廃止し、国民皆兵の道を歩むことになった。だが、この政治判断によって、ただちに歴史的な武士階級が失われたと考えるのは、浅薄な見方である。武士身分を失ったひとびとは、さまざまな形で、社会に浸透し、近代日本を牽引していくことになる。そのもっとも特徴的で不穏な存在が、いわゆる「大陸浪人」である。彼らは大陸に逃れ、大陸に維新をもたらすべく活動するが、それは同時に、アジアに戦争の機運を撒き散らすことでもあった。

# 8/26(土)

## 14:30~17:00



会場：奈良カレッジズ交流テラス（奈良女子大学東側敷地内）

主催：人文学の正午研究会 [kiotanaka@fragment-group.com](mailto:kiotanaka@fragment-group.com)